山形スタディツアー
（インバウンド推進・地域活性化のためのスタディツアー）

報告書

2018年7月17日～24日

ご支援いただいた皆様へ

2018年7月17日～24日に実施いたしました山形スタディツアー(寒河江市・白鷹町・高畠町)を、無事、大成功のうちに終えることができました。

皆様の応援が、学生達はじめ、このプロジェクトを推進してきた私たちの大きな支えと励みになりました。心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

皆様に、学生たちの活動の概要を、ご報告申し上げます。

今回のプロジェクトの実施にあたりましては、3つの自治体様はもちろん、関係団体、受け入れをしてくださった企業様に、たいへん魅力的な活動内容をご用意いただき、また学生の指導にご協力いただきました。

こうした皆様のご厚意とご尽力に支えられて実現することができましたこと、深く感謝申し上げております。ありがとうございました。

2019年度も引き続き、3つの自治体様に受け入れをお願いし、継続的にスタディツアーを実施してゆく予定にしています。また、今春にも1月30日～2月6日に山形県寒河江市、2月18日～25日に飯豊町にうかがい、同様のコンセプトで学生たちの活動を行う予定にしています。

今後とも、引き続きご支援を賜ることができれば幸いです。

どうぞよろしくお願いいたします。

国立大学法人　東京外国語大学
国際社会学部長　吉田ゆり子
言語文化学部長　八木久美子

目次

1．　山形スタディツアーの目標と方法

2．　受け入れ自治体と参加学生

3．　スケジュール

4．　各自治体での活動
　　①寒河江市
　　②白鷹町
　　③高畠町

5．　スタディツアーに参加して

目標

1. 日本の現状と問題点を、具体的な地域を対象とし、自らの体験を通して具体的に認識する。

2. 日本社会が構造的に抱える問題を解決してゆくための道筋を考え、日本、そして世界の将来を担うという意識を持った人材を育成する。

3. 地域社会に暮らす住民の方々との対話を通して、地域の持続可能性にとって有意義なインバウンド推進の方向性を探り、実現することを目指す。

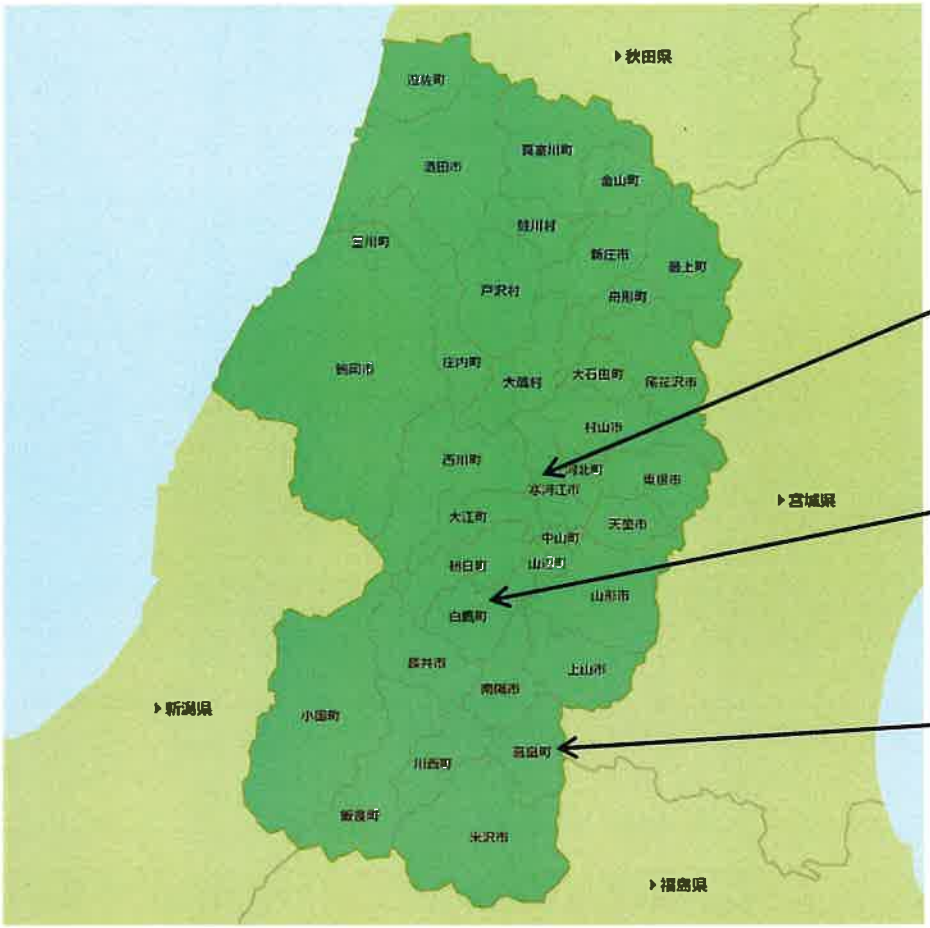
方法

1. 留学生と日本人学生がともに日本国内の自治体に滞在し、地域の歴史や文化、現在の産業などを体験学習する。

2. 当該地域の魅力を海外在住者向けに多言語で発信するためのインターネット等のコンテンツを作成し、地元自治体や住民などと連携してそれを海外に発信する。

3. 海外からのインバウンドを推進することで、地元に成果を還元しようとする取り組みである。

受け入れ自治体（山形県）



＝　各自治体の受入案　＝

寒河江市：　登山道整備、サクランボ・ブルーベリー等収穫体験、観光協会・地元旅館・観光物産販売施設等でのインターンシップ、地元特産品生産現場での見学・体験などをとおして、地域の魅力・観光資源開発をおこない、インターネットでの発信方法の提案・コンテンツ作成

白鷹町：　農家・製菓店・焼き物工房などでのインターンシップ
地域の魅力・観光資源開発をおこない、インターネットでの発信方法の提案・コンテンツの作成

高畠町：　JETRO山形共催のワークショップ（地元企業の商品の海外輸出戦略提案）
「昭和レトロ町」の再活性化に向けた取り組みの提案
地域の魅力・観光資源開発をおこない、インターネットでの発信方法の提案・コンテンツの作成

参加学生

留学生 8人、日本人学生 23人が参加！

寒河江市　16人
留学生4人（中国・ジョージア・ギリシア・台湾）
日本人学生12人

白鷹町　9人
留学生2人（タイ・中国）
日本人学生7人

高畠町　6人
留学生2人（マレーシア・オーストラリア）
日本人学生4人

※　世界教養プログラム「現地で学ぶ・スタディツアー」
インバウンド・地域活性化のためのスタディツアーとしてとして、2単位を付与

スケジュール

4月13日	学生向け説明会
4月25日	学生向け説明会（英語）
5月末	参加学生決定
7月12日	事前学習（於大学）
7月17～24日	各自治体で研修 （共通プログラム）
7月17日	各受け入れ自治体に到着 授業趣旨・概要説明、自治体概要・歴史説明、市町内見学
7月23日午後	全体学習（山形市内に集合し実施）
7月24日午前	研修（SNSコンテンツ作成、地元報告会準備）
午後	地元報告会、現地解散・帰宅
7月25日～	事後学習
10月3日	報告会（於大学）

各自治体での活動

①寒河江市（留学生4人、日本人学生12人）

7月17日
寒河江市庁舎にて市長のご挨拶を
はじめとした歓迎式
観光農園でさくらんぼの収穫体験
TASSHOにて寒河江市の歴史、観光開発への取組み、人口政策についての講義を受講。

7月18、19日（2グループに分かれて交互に実施）
① ブルーベリー収穫作業および
トマトの出荷作業
② 葉山の登山古道（大尊仏コース）
復活整備作業

7月20日
体験観光の資源調査
（豆腐作り体験、そば打ち体験、手編み草履製造見学）

7月21日（自由時間）
地元の方々との交流や
市内観光資源調査

7月22日　2、3人のグループに分かれて就業体験

① 観光協会の窓口業務
② JAのジェラート販売
③ 観光物産施設「チェリーランド」での販売業務
④ 寒河江SAの販売業務
⑤ 温泉宿「一龍」接客業務
⑥ チェリーランドパークホテル接客業務

7月23日午前：市内観光業者とのインバウンドに関する意見交換会
午後：観光ワークショップ（JTBGMT）への参加、翌日の報告準備

7月24日午前：報告会の最終調整
午後：地元報告会

- 学生たちによる自己紹介、活動報告、Facebook多言語記事の紹介
- インバウンド観光振興に向けた「提言」のプレゼンテーション（寒河江市のゆるキャラ「チェリン」の旅のストーリー、同キャラを主役とした漫画作品披露、「外国人から見た寒河江の魅力」等々）

②白鷹町　（留学生2人、日本人学生7人）

7月17日
　町役場で町長のご挨拶。
　商工観光課から町の歴史・産業・観光の現状等のレクチャー
　東北最古の阿弥陀堂「海山観音堂」見学

7月18～20日就業体験（3グループに分かれて3箇所で実施）

① サンファームしらたか（農業）
　- メロンの玉吊り、圃場の除草等

② 深山工房つち団子（焼き物）
　- 登り窯のための薪割り・薪運び、箸置き製作体験等

③ やまり菓子舗（和菓子製造）
　- どら焼きづくり、接客等

7月21日　（自由時間）
フラワー長井線や自転車で
観光資源調査

7月22、23日　とみひろ（染織・養蚕）
紅花（はな）の館（紅花栽培・加工）
やまり菓子舗での就業体験

- とみひろ：
古民家の販売・観光スポット
としての整備を見学
- 紅花の館：　紅花摘み・紅餅づくりの体験

7月23日午後　観光ワークショップ（JTBGMT)への参加、町の魅力を発信する
コンテンツの作成

7月24日午前：報告会準備
午後：地元報告会
- 40名を越す地元のみなさんに向けてインバウンド推進のための提案や、一歩踏み込んで観光ではなく定住を通しての地域活性化という観点からの学生たちの意見を発表

③高畠町　（留学生2人、日本人学生4人）

7月17日　高畠町の郷土資料館にて近世から近代に至る商業や産業に関する講義を受講
県立うきたむ風土記の丘考古資料館にて縄文時代からの歴史講義を受講
弓矢、火興し、石器で野菜を切るなどして料理を作り、縄文時代の生活体験

7月18～21日午前
企業訪問(ファインと高畠ファーム)
企業の沿革、販売戦略等を社長より受講
工場見学、ソーセージ作り、あるいはジャム等を試食、意見交換

「熱中小学校」訪問
設立趣旨・地方創生の取組み等のヒアリング

「昭和縁結び通り商店街」訪問
商店街の方々へのインタビュー
地元の人々との交流

自転車にて観光資源調査、商店街活性化の提案の検討

7月18～21日午後
グループワーク(課題解決型学習)
二企業(ファインと高畠ファーム)の海外戦略（JETRO山形による指導）
「昭和縁結び通り商店街」の活性化課題の共有、解決策の立案等報告

7月22日　自由時間

7月23日　商店街ヒアリング、
観光ワークショップ(JTBGMT)参加

24日午前　報告会の最終調整

24日午後　浜田広介記念館にて報告会
自己紹介・活動報告
2企業(ファインと高畠ファーム)の海外戦略の提言
- ファインにはベトナムの高級スーパー向けの輸出を提言
- 高畠ファームにはマレーシアとオーストラリアにそれぞれ別の品物の輸出を提言

「昭和縁結び通り商店街」の活性化課題・製作ポスター披露

スタディツアーに参加して

※ 学生たちの報告書からの抜粋

＝寒河江市＝

- 東京に戻る途中の電車で旅行広告を見て、何がこの地域の売りなのか、またアピールとして何が不足しているのかを考えた。今まで旅行の広告をそのような視点から見たことがなかったため、今回の体験で観光について考える頭が鍛えられたように感じる。日本は外国人観光客の増加に加え、生産年齢人口の減少にも直面している。観光はこれらの状況にアプローチしていく上で効果的な切り口となることができるものの一つである。さらに見識を深め、観光を武器にできる人材となりたい。

（日本人学生）

- インバウンドを推進して、人口減少の分を外国人観光客にカバーしてもらう、という発想自体は良い。しかしインバウンド以前に、国内の観光客を受け入れる体制も満足に整っていないな、というのが正直な感想である。それにはWi-Fiやクレジットカード、医療設備の整備に加え、言葉遣いに表れるやや保守的な内面の他にも、交通面、PR面で様々な課題がある。訪れる前はさくらんぼのイメージしかなかった寒河江市だが、蛍が見られたり、薪割りができたり、美味しいトマトやブルーベリーを自分で収穫して食べられたり、と知られていない魅力的な面がたくさんある。今回のスタディツアーでの提言を改良しながらぜひ市の発展に役立てていってほしい。

（日本人学生）

- 今回のツアーを通じて僕が1番改善が必要だと思った課題はやはり「食」である……今台湾では全人口の15%以上の人々がベジタリアンである。また東南アジアにおいてもベジタリアンの人々が増えているだけでなく、彼らの中にはハラールやコーランといった宗教などの理由で食事の制限がある人々も少なくない。こうした人々に対する食事の対応が寒河江では残念ながら全くされていない。私自身もベジタリアンで今回のツアーでは……料亭や弁当など一部の箇所ではベジタリアン対応が用意できず、他の皆と同じ料理を、肉とか魚などを抜いて食べるといったことをせざるを得ない日があった。台湾を中心に、これから先ベジタリアンやハラールなど食事に制限があるお客様が寒河江に来てくれた際、彼らが食べられるようなメニューなどの整備を進めていかなければならない。そのためにもまずはホテルやレストランの事業者を始めとする地域の方々に対して、ベジタリアンなどについての勉強会を開き、世界の「食文化」についての知識をつけていく必要がある。また寒河江の「食」の魅力にこのような人たちも触れていけるようにしていかなければならない。例えば今回山形で有名な豆腐屋さん「住吉屋」の工場見学と隣接するお土産屋さんへお邪魔させて頂いたが、そこで僕は人生で初めてカレーパンというものを食べることが出来た。普段カレーパンにはお肉が必ず入っているため、僕を含め家族全員カレーパンを食べたことがなかったが、そこではおからを使いお肉を一切使っていないカレーパンを販売していたのだ。これはベジタリアンの人々にとってはものすごい魅力的な食物だと私は思う。こうした物もより売り出して広めていく必要があると考える

（留学生）

- 寒河江市は今の時点でも観光資源を十分持っており、それをもっと活躍させ、アピールすると観光増加に繋がると思われる。そのような、寒河江市でしかできないことを観光スポットにするのはこれからの課題だろう。更に、受け入れた観光客は国籍にかかわらず観光を楽しめるというのを目標とし、環境を整え、現地の人々の異文化に対する意識を高めることで活性化は成功する。

（留学生）

＝白鷹町＝

- 最後の報告会で、地域おこし協力隊の方に「皆さんの意見を聞いて元気づけられました」と言われた時、そして案内人のUさんに「白鷹についてこんなにたくさん考えてくれてありがとう」と言われた時、涙が出そうになりました。学生9人による8日間の滞在で何ができるのか、何か変わるのか、正直途中まではよく分かっていませんでしたが、きっと白鷹町の方々の心には何かを残せたのではないかと思います。地元の人だけでは難しいため、私たちのように外から来てその町について真剣に考え、町を刺激してくれる人を募ること。皆で多角的な視点から調査分析し、再発見或いは新発見したものを広めていくこと。そして、一時的なものにせず、活動が終わっても地域のためを思い行動すること。言語・文化的な難しさや受け入れ環境の問題など残る問題はありますが、地元の人々だけで無理なら毎年少しずつでも他の人々を巻き込んで、白鷹町を愛してくれる人・興味を持ってくれる人を増やしていく、それが何より大切なのではないでしょうか。

（日本人学生）

- 白鷹町での体験の中、特に印象深かったのは「サンファーム白鷹」での体験でした。「サンファーム白鷹」に行く前に、今までの人生の中全く農作業と関わりがなかったので、「きたない、きつい」というイメージしか持っていなかったのですが、そこでの体験を経て農業の「楽しさ」；大自然の中に溶けそうな自分も「自然の一部」の体験；地域農民たちの温かさと素朴ながら満足しやすい生活観を知り、理解しました。荷台の上から見た映画シーンのように遠ざかっていく田んぼと肌で感じた言葉で表現できない気持ち良い風を一生忘れられないと思います。Kさんが可愛い笑顔で「これは稲の子供達だべー。あと二週間くらいに穂になるんだ」と教えてくれた時の楽しさを一生忘れません。

（留学生）

＝高畠町＝

- 地域活性化ワークショップの一環として商店街の現状を踏まえ、集客のための解決策を考える上で、実際に商店街にてお店の方々やお客さんとの交流を図ったり、雰囲気を味わったりとフィールドワークを実施させて貰ったが、その際に町民の方々の温かさに触れ高畠町の素敵な面をまた新たに発見する一方で、地域の人々が一体どこまで地域活性化の必要性を感じているのだろうかという疑問も残った。観光客や消費者目線では活性化が必要不可欠であるように思えても、農作物が豊富に取れ、土地を持っていらっしゃる方々も多い地域において、実際に経営者の立場や商店街の人々からの視点で考えると、そこまで必要に迫られていないのかもしれないと感じてしまうことがあった。町役場を含む行政や企業の方々の地域活性化に対する取り組みや意気込みは強く感じられ、私たちもその思いに同調させてもらい、改善策を私たちなりに考え出そうと努力することができたが、外からの視点だけではなく、地域に住む地元の人々の力強いエネルギー、本気度を引き出していかなければ本当の意味での活性化は進まないのではないかと思い、そこがこれからの課題であると私なりに感じた一週間であった。

（日本人学生）

- 山形スタディーツアーに参加できてとても嬉しく思う。高畠町ならではの風景を始めに、皆の優しさと食べ物のおいしさが最高だと思う。毎日新しい経験ができ、山形の美しい自然を楽しみ、高畠町チームと仲良くなり、たかはたファームでのインターンシップで戦略を実際に作ってみたり、昭和縁結び通りの未来コンセプトを作ったり、いい思い出ばかりが作れたりできて感動した。これからも山形県・高畠町のすばらしさを発言するつもりである。

（留学生）

2018年度夏学期　山形スタディツアー　報告書

発行:　2019年1月
国立大学法人　東京外国語大学
住所:　〒183-8534　東京都府中市朝日町３－１１－１
電話:　042-330-5111
E-mail:　cs@tufs.ac.jp
HP:　http://www.tufs.ac.jp/